はすだっこ人権通信

12月号

この「はすだっこ人権通信」は、毎月何人かの教員が、人権・同和教育に関する情報や、個人の思い・つぶやきなどを発信します。読んだ方の人権意識の高まりや、新たな発見があればと思います。ぜひ、ご家庭でお子さんと一緒にご覧いただき話題にしてみてください。また、ご意見・ご感想等があれば右記フォームまでお寄せいただけると喜びます！

人権・同和教育担当　塚田 哲也

「多様な価値観」

出雲では、１１月２９日に全国の神様をお迎えする神迎神事が行われました。今年も八百万の神様をお迎えしたことになります。日本人は昔から多数の神様をお祭りし、多様な文化を寛大に受け入れる民族です。アニミズムといって物や自然物にも神様が宿ると考えます。

しかしながら時代や世代によっては、多少なりとも価値観の変化は起こっています。特に昭和、平成、令和では大きく変化しているように感じています。マッチングアプリにおける結婚は私にとって衝撃的でしたが、当たり前の世の中になっています。教育においても同様です。昔の「愛のムチ」はもう行ってはいけません。今はバーチャルな体験が多く、そして調べるものの根拠から調べなければいけない時代です。そして正論に重きを置き、あまり無茶な本音は封印しないといけません。

さて教育を「人を育てること」と捉え、本当に必要なことは何だろうと自問自答します。一緒に活動し、一緒に学ぶ大切さや人に触れる機会、本物に触れる機会は大切にしたいと思います。学校制度がスタートして１５０年です。多様な価値観はあるにせよ、普遍的なことと変化することを見極め、日々精進したいと思います。「あなたの言葉は正しいが、正しいだけで心がない。」あるドラマの言葉が身に沁みます。

荏田　幸浩

「心配と信頼」

子育てにおいて、常に先々を心配するのは親として当然のこと。子どもが可愛いぶん、いくつになっても親はわが子が心配なものですね。かくいう私も、実家に帰ると、一人暮らしの母から「温かくして寝なさいね。」などと言われ、たまに草刈りでもしようと言うと、自分の方が上手だからと、全く取り合ってくれず…いつまでたっても心配される側だなあ、と親心を再認識するのです。

私自身、日々の子育ての中で不安や心配になることがあります。そんな中、心配が過ぎると、却って相手を不安にさせたり、自信を失わせたりしてしまうことに繋がるのではと考えることがあります。心を配るのは大切なこと。ですが、必要以上に相手を心配するよりも、その人のもつ力を信頼し、「大丈夫、あなたならできる！」と、応援してあげることで、自信を引き出し、成長に繋がっていくのではないかと思うのです。心配も信頼も、どちらも相手を大切に思うからこそ。忙しい毎日ですが、心にゆとりをもって、相手を尊重する気持ちを忘れずに過ごしたいものだと思います。

山本　美貴子

「誰もが読書を楽しめるように！」

久しぶりに家にある昔の文庫本を読みました…目が疲れました…。文字は小さく、行間は狭く、文字がぎゅっと詰まっているような…。こんなに読みにくかったっけ？と思いながら読みました。同じ文庫本でも、最近の文庫本は随分見やすくなっています。解放感があって、装丁もお洒落、文字もだんだん大きくなり、書体等も工夫されています。

読書は、印刷された紙の本だけではありません。デジタル機器を使って、文字の大きさや色を変えたり、音声で読み上げたりする本もあります。手で触れて読む点字や布の絵本もあります。本を読むために必要な道具や手段は、たくさんあります。読むことが困難で読書することを諦めることなく、別の方法で読書できることを知って、自分で読書のカタチを選ぶことができるのです。読書バリアフリーで、誰もが読書を楽しめるように！

さて、眼鏡を新調して出直してきましょうか。

小池　智子